目白大学中国語学科公開講座

台湾有事

言説に踊らされる世論と現実の脅威

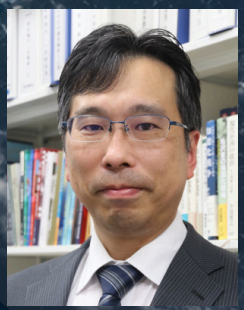
中国は台湾に軍事侵攻するのか？近年、繰り返し語られてきた「台湾有事」。
中国の軍事力増強は目覚ましく、台湾周辺での軍事活動も常態化している。
米国の関与に揺らぎも見える。危機は避けられないのか。不安を煽る言説が広がるいまこそ、冷静な理解が求められる。

2026年
7月24日 金

開場 16:30 開演 17:00
—18:30（予定）

目白大学 新宿キャンパス
東京都新宿区中落合4-31-1 10号館9階（予定）

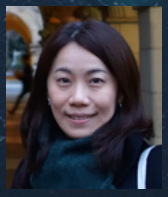
事前参加申込にご協力ください。
満席の場合は申込者優先とさせていただきます。



講師：五十嵐隆幸（目白大学准教授）

2020年防衛大学校総合安全保障研究科後期課程修了。博士（安全保障学）。防衛大学校准教授，防衛研究所専門研究員を経て,2026年より現職（中国語学科）。主著に『大陸反攻と台湾—中華民国による統一の構想と挫折—』（名古屋大学出版会、2021年）など。

コメンテーター：黄美恵
（台湾・中国文化大学副教授）



2008年神戸大学大学院文化学研究科修了。博士（学術）。文藻外語大学を経て現職。

主催：目白大学外国語学部中国語学科
共催：科研費若手研究「台湾駐留米軍の運用をめぐる合意形成過程：東アジア安全保障のなかの米華同盟」（24K16325）（代表者：五十嵐隆幸）、日本台湾学会、基地政治研究会